

同年○延享六月十二日、名字玉造と御改被下、御一字御腰物被下、信英與名乘、

右は秀宗公○伊豫宇和島御幼少之時、玉造郡○陸奥國御住居に付、以其御由緒、玉造と御改被下、

〔陰德太平記十六〕吉川先祖之事

吉河三郎經義、法名本無、此人駿河國吉河ノ邑ニ被居住、故ニ吉河ヲ稱號トス、始吉香或ハ木河、或ハ吉河ナド、時ニ依テ書タリシガ、後ニ吉川ヲ用ヒ來レリ、自是代々以吉川稱之、

〔改選諸家系圖前編十〕酒井氏

廣親○中

參河尾張之堺有川、名坂井、其邊號坂井鄉、徳川親氏君、壯歲經歷諸州時、僑居坂井邑、嘉吉二年壬戌爲坂井五郎左衛門贊、其後同三年癸亥十二月、生廣親以坂井爲氏○中後改坂井爲酒井、

〔寛永諸家系圖傳五十三〕土井

始は土居と號す、利勝にいたりて、土井とあらたむ、

〔寛永諸家系圖傳百十二〕片桐

はじめは片切たりといへども、爲眞代より、片桐にあらたむ、

〔寛永諸家系圖傳百四十三〕喜多見

はじめ木田見の字を用ひ、また北見の字をもちゆ、

〔武藝傳統錄下〕水野流居合

木戸彌治右衛門正勝、法名自證院、寛政八年十二月廿六日死、正勝木戸ヲ城戸ニ改、

〔豆相記〕氏盛○中號伊勢新九郎、略、氏盛、假今川葛山士卒、而攻取於豆、擊殺狩野伊東等門族、移豆、雍山城、改伊勢歸北條、而既爲豆大守矣、時長祿二寅年也、

〔寛永諸家系圖傳三十七〕石川